

米国



コンマ数秒を狙うスピード株取引

デイトレーダー スクール

Day Trader School

米国オンライントレード界には、専用のソフトと高速回線を使って株の売買をする「デイトレーダー」と呼ばれる連中がいる。彼らが使っている取引環境は、通常のブラウザでのオンライントレードと比べると「ポルシェ級」の代物だという。彼らはこの「ポルシェ」をぶっ飛ばし、数秒の取引で何千ドルという利益を上げることもある。米国プリスティーン社が主催するデイトレーダー養成セミナーに飛んだ。

メディア・プロデューサー 梶山 寛



「マネー」は究極のデジタルコンテンツだ

オンライントレードがホットだ。日本でもすでに株式売買高の2%を占め、2年後には口座数も500万を超えると予測されている。インターネットはコンテンツが重要と言われて久しいが、究極のコンテンツとは、実は「オカネ」なのではないだろうか。デジタル情報とは数字で表せる情報のこと。金融とインターネットは、原理的に相性がいいのだ。

なかでも「デイトレーディング」(以下、DT)という手法は、数秒から数十分という超短期間しか株を保有せず、1日のうちに反対売買まで終わってしまうので、市場が閉まっ

たあとの値下がりリスクがゼロだという。そんなウまい話は本当にあるのだろうか？ 好奇心(と金銭欲)でいっぱいになった筆者は、日本にDTを紹介した先駆者、馬淵一氏が米国のシアトル郊外で主催するセミナー取材することにした(Jump01)。

DTに最適化した環境でポルシェ級のトレードを提供

ワシントン州カークランドは、シアトルのダウンタウンから車で30分ほど。ビル・ゲイツ氏の自宅からもそう遠くない高級住宅地だ。馬淵氏のオフィス「プリスティーン・ノースウェスト」は、ワシントン湖に面した小さな

マリナーの近くにある。ここでは、高速回線とPC、専用ソフトによるトレーディング環境と情報サービスを、個人のトレーダーにひと月単位でレンタルしている(Jump02)。

米国株のオンライントレーディングには大別して2種類ある。1つは、通常のブラウザとE*TRADEやDATEKといったディスカウントブローカーを使うトレード。数日から数年といった単位のトレードであれば、これで十分だろう。一方、プリスティーンなどの会社が提供する環境こそ、「クルマでいえばポルシェにあたる」(馬淵氏)ものであり、数秒単位の執行が必要になるDTに最適化されたシステムなのだ。

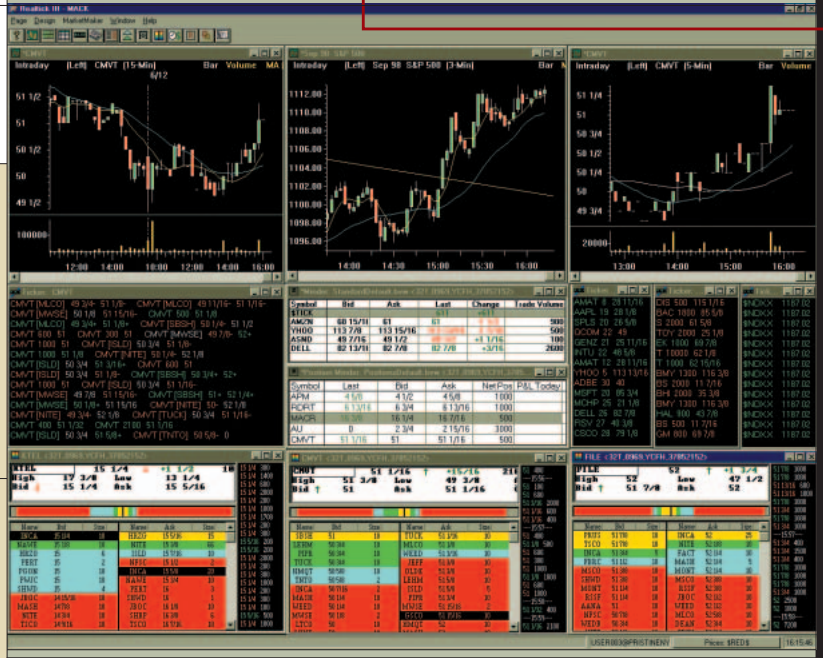
DTを糧とする人たちは「トレーダー」と呼ばれるが、彼らトレーダーがプリスティーン社のフロアに「出勤」する時間は朝の6時とかなり早い。と言うのも、米国市場は東海岸時間を基準にしており、開場の9時半がシアトルの6時半にあたるからだ。PCは普通のウィンドウズ2000マシンなので、自宅からモデム経由でトレードすることも可能だが、システムの信頼度、回線速度、フロアに漂うコミュニティ的な感覚などを総合すると、こうしたトレーディングシステムをレンタルする



DayTrade Net

Jump01 www.daytradenet.com

馬淵氏が運営するDayTrade Net。デイトレードに興味がある人は、まずここにアクセスするといいたいだろう。



Jump03 www.executioner.com

これがプリスティーン社のデイトレーダー御用達ソフト「エグゼキューショナー」の画面だ。専用端末も顔負けの情報が、この恐るべきソフトで得られる。

意味が大きいということだろう。

ここで使われるトレード用ソフトは「エグゼキューショナー」**Jump03** といひ、株価表示、売買執行、分析ツール(チャート)などが統合されたものだ。表示される情報の中で特にDTに不可欠なのがNASDAQの「レベル」ウィンドウだ。E*TRADEやDATEKなどのオンライントレードでは「マーケットメーカー」と呼ばれる大手証券が提示する値段のうち「買いの最高値」「売りの最安値」しか表示されなひ。eBayのようなオークションにおいて、最高値しか見えないシステムを想像してもらえばいいだろう。これをレベル

情報という。それに対して、レベル ではなく、下位の値付けまでがリアルタイムで表示されるため、マーケットの「気配」がより広く見通せることになる。

DTは危険か安全か。本当に簡単に儲けられるか？

インターネットは、さまざまな人をダイレクトに結びつける。メーカーと消費者、政治家と有権者...etc.。ここプリスティーンでは、ごく普通の個人がダイレクトに株式市場にアクセスしている。これまで、大手金融機関の

トレーダーにしか与えられなかった環境が、ひと月に数百ドル程度の負担で手に入ってしまうのだ。

3日間の集中セミナーを受講したあとの率直な感想は、「やはり簡単に儲けられるものではない、しかしリスクを管理するためのメソッドがかなり確立されているな」というものだった。ここでクルマの比喩は有効で、シロウトが何の訓練も受けずにF1のレースに出ることがないように、知識も経験もない人がいきなりDTを始めるのは自殺行為だろう。

市場とは、どんなものでも上がるか下がるかしかない。そこへのダイレクトアクセスとは、市場のダイナミズムにしたがって、莫大な儲けを出すことも、取り返しがつかないような損をする可能性もあるということなのだ。DTが危険か安全かという議論は、実は意味がない。それは、クルマやナイフがそうであるように、使い方次第で便利な道具にも凶器にもなり得る。1つ確実なのは、秒単位の読みと職人的な執行技術で市場に挑むDTには、人を夢中にさせる魔力があるということだ。これは、究極のコンテンツをめぐる世界最大のネットワークゲームなのだ。



Jump02 pristine.com

トレーダー教育サービスのプリスティーン社。セミナー費用は3日間で3500ドル(NY本社)。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp